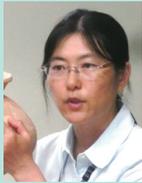


久留倍官衙遺跡

一般国道1号北勢バイパスの工事のための発掘調査で7世紀後半から平安時代におよぶ朝明郡の役所跡がみつかりました。それらは、堀で囲まれた郡衙政庁を中心とする建物群→東西に長い大規模な建物を中心とする建物群→床を持つ構造の倉庫(正倉)を中心とし、それらの周りに区画溝をめぐる正倉院というように大きく分けて3度の変遷をたどることがわかりました。

また、壬申の乱(672年)のときに、大海人皇子(のちの天武天皇)が朝明郡に立ち寄っていることや、聖武天皇の東国行幸(740年)のときに朝明郡で2泊していることが『日本書紀』や『続日本紀』、『万葉集』といった古典に書かれています。これらのことと久留倍官衙遺跡との関係が重要と考えられ、平成18年に国の史跡に指定されました。

出演者プロフィール (登壇順)



石毛彩子

四日市市教育委員会社会教育課 学芸員 大阪府出身

共著:『古代の稲倉と村落・郷里の支配』(国立文化財機構 奈良文化財研究所、1998年)

『古代豪族居宅の構造と機能』(同前、2007年)、『久留倍遺跡の正倉院』(『日本古代の王権と社会』塙書房、2010年)



佐藤 信

東京大学大学院教授 東京都出身

主著:『日本古代の宮都と木簡』(吉川弘文館、1997年)、『古代の遺跡と文字資料』(名著刊行会、1999年)、『出土史料の古代史』(東京大学出版会、2002年)、『古代の地方官衙と社会』(山川出版社、2007年) (山川出版社 日本史リブレット)



東野治之

奈良大学名誉教授 日本学士院会員 兵庫県出身

2010年秋 紫綬褒章受章

主著:『正倉院文書と木簡の研究』(塙書房、1977年)、『遣唐使と正倉院』(岩波書店、1992年)、『長屋王木簡の研究』(塙書房、1996年)、『遣唐使』(岩波書店、2007年)、『聖徳太子ほんとうの姿を求めて』(岩波ジュニア新書、2017年)



市 大樹

大阪大学大学院准教授 愛知県出身

主著:『飛鳥藤原木簡の研究』(塙書房、2010年)、『すべての道は平城京へー古代国家の〈支配の道〉ー』(吉川弘文館、2011年)、『飛鳥の木簡ー古代史の新たな解明』(中公新書、2012年)、『日本古代都鄙間交通の研究』(塙書房、2017年)



堀越光信

四日市市教育委員会社会教育課 学芸員

皇學館大学研究開発推進センター共同研究員 東京都出身

共著:『日本の神々』(新潮社、1998年)、『中世の寺社と信仰』(吉川弘文館、2001年)、『国史大系書目解題』(吉川弘文館、2001年)、『神像の美』(別冊太陽、平凡社2004年)、『日本の神々』(東京美術、2005年)

シンポジウム進行予定 9:30開場 10:00開演(15:30終了予定)

【第1部】

- 10:00 教育長 葛西 文雄 挨拶
- 10:05 久留倍官衙遺跡映像上映
- 10:20 「久留倍官衙遺跡の概要と整備計画」 石毛彩子
- 10:40 「久留倍官衙遺跡と古代の地方官衙」 佐藤 信
- 11:20 「天平十二年の聖武天皇行幸」 東野治之
- 12:00 ~ 13:00 〈休憩〉
- 13:00 「聖武天皇の伊勢行幸と万葉集・志摩国荷札木簡」 市 大樹
- 13:40 「久留倍官衙遺跡とその展開」 堀越光信
- 14:20 ~ 14:30 〈休憩〉

【第2部】

- 14:30 ~ パネルディスカッション
- コーディネーター:佐藤 信
- パネリスト:石毛彩子 東野治之 市 大樹 堀越光信